

世
靈
餘
聞
茅
九

15
1560
8



1171

1171

1171

15
1560
8



中
頁

山
取
子

海
雲
字
冲
九

独
乙
乙
益
齐
二
於
而
卷
在
流
了

山
漂
空

昭和
年
月
日
氏
贈

37 5547

翰

8 12
木



中
頁

上
段

3
次

曾
字
中
九

独
乙
乙
益
并
之
於
而
卷
在
終
了

山
漂
字

目
次

合
力

一
西
洋
免
百
集
一

一
三
國
幽
眠
詩

一
撒
山
地
行

一
獨
乙
人
氏
之
無
彼
好
心

一
毛
乙
尸
羊
集
一

一
西
洋
美
術
一

一
頭
川
至
藉
多
往
來
人
民

一
ア
イ
夕
心
由
來

一
寫
詩

一
神
原
仙
崎
書
翰

一
ヨ
シ
種
奔
胸
人
時
起

一
東
因
地
示
南
菊
酒

一
永
田
谷
稼
死
了

一
西
洋
流
夏
集
一

野
口
松
坡

6
抄

下
段

三
節

6
抄

6
抄

6
抄

中
卷
表

昭和
年月
日
寄
氏
贈

右馬ノ上ハ
事文
お

三字
下テ

一書ノ品ニ初学ノ者ニ解シ易キ者ヲ流ニト
 ス< 師云フ猶早シト< 余之ヲ甘ニセニ稿
 ニ一書ヲ讀ヒ来リ師ノ力ヲカラスニ流ニ
 ト欲スレバ得ニ< 漸ク字書ヲ採リテ抄ク
 解スルモ、如シ< 此書取主古拾ノ逸夏
 小治ヲ集シ者也< 余之ヲ沢マルニ師ニコ
 ラス、< 教節ヲ得タリ< 品ニ文曲ヲ解スル
 一前ニ去テリ、トナレハ其困苦云々非
 下ニ記スルモ、一字一句皆字ノ書ニコ
 リテ得タルモノニ後日之ヲ見ハ自ラ笑

西洋道中集
 余ノ漢ニニ来ルヤ未タ独ニ語一丁字ヲ解
 セス< 右ニ語学ヲ学ンテ後ニ非サレハ專
 門ノ科ヲ修ムルヲ得ス< 故ニ師ヲ聘シ先
 以テ文曲ヲ学ビ日ニ三才ノ童子ノ言句ヲ習
 フカ如ク一字一語師ノ教ヲカラサル可ク
 ス< 余ハ心ニ之ヲ以テ思レリトハ友サレ
 凡其解々サレテ如何セニ< 余師之在ラテ

銀座 伊東屋製

其後、目的ハ那
辺ニアルヤト
王曰ク然ル件ハ

攻撃セトス大匠ケ子アス王ニ過々曰ク西
馬ハ既ニ臣多ク強國ヲ滅ボシ其首長等ヲ服従
セシメテ漢ニ交ルウサレバ執力臣備ニ法
沖ノ陛下ニ勝利ヲ示シシムルヲ希望スル
然レバ陛下若シ今回ノ戦ニ勝テ占メ玉フ
ラハ陛下ノリ一驚ニ交リ羅馬人ヲ討テ回
占領セシト遊スト大臣再ヒ曰フテ曰ク其目
的ヲ達シ玉フノ後如何王曰要非利加ニ航
シカニテ及ヒ其地方等ヲ侵略セシトス大
臣又曰王ノ其目的ヲ達スルノ日アラハ抑如何

シノ地ヲ得レト欲シ玉フヤ又其後ノ目的ハ
如何ソヤ王曰朕ノ宿志其時及レテ達セル
ニノミト是ニ於テ天子アス王ニ告テ曰ク王
ノ目的果シテ安ク送ラレトスルニアラハ
何ソ今日ヨリ其妻ヲ行ヒ玉ハサレ又何者カ
之ヲ妨ケン王何ヲ苦ニテ力自ラ進ニテ其弟
カト危険ニ冒シ玉フヤ又今日已ニ施設ノ権
ヲ有シテオラ何ヲ苦ニテカ異慮ヲ振フテ他
ボノニト欲シ玉フヤト

一女子ト

銀座 伊東屋製

下
下

5

下
下

下
下

ンキスハレト序ノ論言
 法字士ケル然入申スセルレ爵位ヲ授ケラレ
 或程モナクハ独乙己ノ正務ニ同ババセルト
 云ハ何ノ議合ヲ用カレレニ際ノ氏モ亦之ニ同
 其日ニ至ラズモ亦之ニ同ル其日ニ至ラズモ亦之ニ同
 場ノ入ニ及ニテ自ラ勤勞セ
 一席ノ入ル可キヤ又吾士ノ席ニ入ル可キヤ
 疑ヒ考フル少時自ラ爵士ノ辭ヲ入ルニ決ス
 其席ニ入ル可キヤ又吾士ノ席ニ入ルニ決ス
 汝本日勤勞士ノ辭ヲ入ルニ決ス一人ノ
 友ニ免ヘス汝知ラスヤ一日ノ中ニ數千人
 勤勞士ヲ出スハ朕ノ手裡ニアリ然レハ朕
 十年ノ久レキ僅カニ一人ノ良士ヲ得タルト
 西班牙王ヲ申リテ之ニ我境ノ工アリ
 王自ラ書信ヲ書テ敢テ之ヲ侍臣ニ命セス
 侍臣唯之ヲ封書スルノ一
 一夜別ノ如ク王
 自ラ數多ノ書信ヲ書テ然リ例ヲ願ハシ侍臣睡
 テ其終リシヲ知ラス王辭カニ之ヲ呼起ス
 侍臣驚キ定メテ狼狽スルト甚シク砂亞
 西俗字ヲ書ス
 銀座後田少ヲ

砂亞
 西俗字ヲ書ス
 銀座後田少ヲ

街

下

下

65

其エニ散スル~~也~~蓋里計ノ早ク
 乾カンヲ欲スル~~也~~
 ヲ取り之ヲ~~取~~入ス~~レ~~ 里計唯~~一~~片ノ書信ノ~~一~~
 ナラズ机上ノ書類ヲ皆~~取~~又~~一~~用ヲナス~~レ~~
 キナシ~~レ~~ 王~~次~~巡~~々~~ヲ見テ又~~入~~ス~~レ~~ 從容ト~~入~~里計
 壺ハ此知~~レ~~アリ~~レ~~ 破~~レ~~壺ハ彼~~レ~~マ~~リ~~ 排~~レ~~ 独~~レ~~語
 スルノ~~レ~~ニ~~レ~~又~~レ~~他~~レ~~更~~レ~~ヲ云~~レ~~ハス~~レ~~ 更~~レ~~復~~レ~~々~~レ~~自~~レ~~其~~レ~~
 フ書~~レ~~ナ~~レ~~寸毫モ~~レ~~如~~レ~~氣~~レ~~ヲ~~レ~~面色~~レ~~ 黙~~レ~~サ~~レ~~リ~~レ~~ト云~~レ~~フ~~レ~~
 又セ~~レ~~フ~~レ~~オ~~レ~~古~~レ~~ノ~~レ~~復~~レ~~更~~レ~~ 澳~~レ~~帝~~レ~~口~~レ~~マ~~レ~~フ~~レ~~ニ~~レ~~古~~レ~~一~~レ~~日~~レ~~維
 也~~レ~~市~~レ~~街~~レ~~ヲ~~レ~~散~~レ~~出~~レ~~ス~~レ~~ 小~~レ~~童~~レ~~ノ~~レ~~筆~~レ~~十~~レ~~歳~~レ~~計~~レ~~リ~~レ~~ナ
 山~~レ~~若~~レ~~其~~レ~~帝~~レ~~名~~レ~~ヲ~~レ~~知~~レ~~ラ~~レ~~ス~~レ~~ 又~~レ~~果~~レ~~テ~~レ~~乞~~レ~~フ~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~吾~~レ~~ニ~~レ~~
 知~~レ~~ラ~~レ~~ス~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~吾~~レ~~ニ~~レ~~ 帝~~レ~~警~~レ~~テ~~レ~~ 顧~~レ~~テ
 曰~~レ~~ク~~レ~~世~~レ~~一~~レ~~ケ~~レ~~ル~~レ~~テ~~レ~~得~~レ~~レ~~レ~~ヲ~~レ~~欲~~レ~~ス~~レ~~ル~~レ~~カ~~レ~~ 小~~レ~~童~~レ~~其~~レ~~
 然~~レ~~ト~~レ~~ 我~~レ~~未~~レ~~タ~~レ~~他~~レ~~人~~レ~~ノ~~レ~~物~~レ~~ヲ~~レ~~乞~~レ~~フ~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~ 勿~~レ~~リ~~レ~~シ~~レ~~カ
 ト云~~レ~~終~~レ~~ハ~~レ~~ス~~レ~~ 西~~レ~~眼~~レ~~ニ~~レ~~ 淚~~レ~~ヲ~~レ~~流~~レ~~ヘ~~レ~~テ~~レ~~ 又~~レ~~語~~レ~~ヲ~~レ~~出~~レ~~ス~~レ~~ 能~~レ~~ハ
 不~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~ 我~~レ~~母~~レ~~病~~レ~~膏~~レ~~ク~~レ~~ 命~~レ~~且~~レ~~タ~~レ~~ク~~レ~~ 在~~レ~~リ~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~
 師~~レ~~ヲ~~レ~~迎~~レ~~ヘ~~レ~~ト~~レ~~ス~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~ 余~~レ~~十~~レ~~キ~~レ~~テ~~レ~~ 如~~レ~~何~~レ~~セ~~レ~~ト~~レ~~ 帝
 心~~レ~~ニ~~レ~~テ~~レ~~ 憐~~レ~~ミ~~レ~~ 其~~レ~~姓~~レ~~名~~レ~~ト~~レ~~ 佐~~レ~~所~~レ~~ト~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~ 懐~~レ~~コ~~レ~~リ~~レ~~
 ゲル~~レ~~テ~~レ~~シ~~レ~~ヲ~~レ~~出~~レ~~シ~~レ~~之~~レ~~ヲ~~レ~~夫~~レ~~フ~~レ~~ 小~~レ~~童~~レ~~喜~~レ~~ミ~~レ~~ 堪~~レ~~ハ~~レ~~ス~~レ~~ 之~~レ~~
 ヲ~~レ~~手~~レ~~ニ~~レ~~取~~レ~~ル~~レ~~ヤ~~レ~~ 否~~レ~~ 馳~~レ~~ス~~レ~~ル~~レ~~ 曰~~レ~~ク~~レ~~ 矢~~レ~~ノ~~レ~~ 如~~レ~~ク~~レ~~ 何~~レ~~處~~レ~~ニ~~レ~~カ~~レ~~ 見
 ハ~~レ~~ス~~レ~~ ナ~~レ~~リ~~レ~~ ス~~レ~~ 帝~~レ~~ 又~~レ~~ 其~~レ~~ 中~~レ~~ 童~~レ~~ノ~~レ~~ 云~~レ~~ヒ~~レ~~シ~~レ~~ 所~~レ~~ニ~~レ~~ 赴~~レ~~キ

銀座 伊東屋製

一
ゆる下

之ヲ尋テ決ク、所ヲ得タリ、
 一月、狭キ階子ヲ登リ、之ヲ見ル、
 上痴婦ハ極メテ粗ナル床ニ卧シ、身也ニ衰ヘタレ、
 誰何セシトモ叶ハス、心ニ思フ、
 是レトモ童ノ囁セシ醫師ナリト、
 帝ハ痴婦ノ病状ヲ問ヒ、
 其始終ヲ尋テ終リ、
 曰ク、
 必スンモ敬神ハ意ヲ懈ルナカレ、
 神ハ人ノ艱苦ヲ見テ捨サル、
 又父母ノ思ハモ考ラサシ、
 扶助アルハ必セリト云フ、
 側ニ有合フ小童ノ手帳ノ紙ヲ引、
 裂キ、
 一ノ藥方書ヲ書シ、
 終リ、
 割レ、
 臨レテ、
 曰ク、
 我ニ、

二藥方書ヲ書セリ、
 之ヲ以テ、
 母ノ病解ルニ至ラレ、
 子ソ望マンケレ、
 我今去ントス、
 世能ク自愛セヨト、
 言捨テ、
 去リ、
 暫ク人ト小童歸リ、
 東テ母ニ告テ、
 曰ク、
 醫師今来レリト、
 其語ヲ終ラサシ、
 醫師已ニ入リ来ん、
 然レモ、
 痴婦其始終ヲ解セス、
 何トナレハ、
 此ノ如キ茅屋ニ、
 醫師一人、
 迄訪来セ、
 ノ理ナシ、
 思フ、
 小童不而識、
 一人ヲ乞ヒ来リ、
 之ヲ医セ、
 云テ、
 吾ヲ欺ム、
 ト、
 及テ、
 先ツ前ノ始末ヲ、
 語シ、
 醫師之ヲ寫キ、
 何人ナルカ、
 其名ヲ知ラマホシトテ、
 ヤカテ、

銀座 伊東屋製

一字

彼藥方書ヲ檢メ警テ曰ク此藥方書ハ我輩維存
 ノ醫師ノ中ニモウケラサレト痛婦怪レ
 于其故ヲ曰フ醫師曰ク前々来リシ醫師ハ
 是レ皇帝陛下ニ而メコレハ病苦ヲ辨シテ九
 十デ工申スト扶助金ヲ給フノ証書トシテ
 同キニ付ル女好ノ警テ且ツ喜ヒ且ツ恩ニ感
 謝ク有様ニ云フモ中々愚カ故テ其後幾
 程モナク醫師ノ治療ニ由テ全癒スニ至リ帝
 ハ尚ホ年々石五トカレテシテ差老金ヲ給ヒ又
 少童ハ頗ル怜悧ニ後来ニ致シマシテ若シレハ

一字

トテ其人トナシニ至ル迄懇ロ教育セシメラ
 レントシフ
 英王ゲオムク英王ゲオムク其母ニ荷蘭ノ各市
 街ヲ歴覽ス日兼馬ノ甚ク好シク副馬
 ニ乗ラントテ路傍ノ一軒刺賣店ノ戶外ニ立テ
 待テ王主人ヲ呼ヒ出シ一時ノ飢ヲ凌カセ
 ニ鶏卵三個ヲ命テ食ス食シ終テ王主人ニ其
 價ヲ同ク答ヘテ曰ク二百ゲンニトシテ王
 警テ曰ク甚ク不廉ナリ此地ニ鶏卵ヲ養スル
 少ナキヤト主人曰ク陛下思テ回ラシ玉ヘ

一字

銀座 伊東屋製

巨金ヲ乞ヒシハ鶏卵ノツナキカ為メナラス陛下ノ

踐民ノ痛御スルヲ甚ク物レハナリト

法王シオ十毒アリ法王シオ十毒アリ

是云フ微民頃日一奇術ヲ發明セリ

フワテスレハ各種ノ銃類留金ニ変シ得入シ

今其法ヲ明記セン一書ヲ法王ノ膝下ニ置ン以

テ乙夜ノ燈ニ供スト彼思ラク必ス賞賜アラ

ント何ソ計ラレ法王彼ノ一室ニ懐ヲ去ヘテ

同ク汝巴ニ供金ノ術ヲ知レハ金懐ヲ以テ去ラス

ルニ及ハス今世ニ空懐ヲ去フ世金ヲ制シテ

之ニ藏メヨ

○ベドロボンザシツトメンドザハ西班牙ノ君牧

師ナリ一日祭祀ノ日陰メコロングスヲ招

キ念書ニ監ニテ氏ニ王侯ノ席ヲ去フ席上

人アリ心ニ氏ノ優待ヲ受ケレテ羨ミ且テ嫉

妬ニ堪ハサルヨリ一ノ門ヲ出セテ氏ヲ甚クメ

トヤリ其人曰ク君ニ西印交ヲ見セサレ

ハ他ニ之ヲ為ス者ナント思ヒ玉フヤト氏敢

テ多言セス一卵ヲ取り席上ノ人ニ与フ

是此鶏卵ヲ立ク心ヲ得ルヤト衆之ヲ試シ

シ能ハス氏之ヲ取り其一端ヲ折レテ推キ

一字アキ

一字アキ

9

一字アキ

伊東屋製

如

一字下

一字下

三才卓上之立ヲシテ向ク衆ニ告テ曰ク余カ一
 房西半球ノ船路ヲ用申シ後之ヲ行フハ何人
 ニテモ能クヘシク此鷄卵ヲ在然リ余一交立
 タシムルノ法ヲ示セシ後何人ニテモ在シ能
 フヘシト此小話ハ伊太利史学家ベンゾニ
 著書中ニ見エ人或ル瑣事トシテ觀ミサルモ
 アレト其比喻ノ單ニシテ其警戒ノ嚴ナル又或ノ
 極オアナルヲ知ルヘシ敬言
 アルフオンス五毒ハアラゴニエシノ王ニテ大
 帝ヲ以テ呼ハシシ者時ノ豪傑ナリ帝ヲ單身市
 街ヲ散めス人アリ告ケテ曰ク陛下至尊ノ身
 ヲ以テ一人ノ隨從ヲ率ヒ玉ハサルヤ何ソ共
 ヲ危難ヲ未ダ防クテ存シ玉ハサルト王
 然曰ク玉ハ國民ノ父ナリ父ニテ其子ノ群集
 スル中ヲ往來スル何ノ恐ルルヤアラレト
 又一日一官吏ノ午ヲテカトシノ余ヲ王ノ前ニ
 持テ來リシニ其側ニ侍セテ一武官獻シテ其他
 一人ニ云テ曰ク余ニテ其類ヲ得テ愉快ニ
 思ハナカラレト五之ヲテテ直ニ曰クコレ
 容易ノ事ナリト手シカラテ取テ之ヲ好ヘタリ

伊東屋製

一字下

11

一字下

一字下

又一日一船兵士水夫ト共ニ沈シリ見ル
 王ノ御テ曰ク誰カアル彼ノ溺レシ者ヲ救ハ
 スヤト比シテ恐レテ行クヲ欲セズ王ノ自ラ
 小船ニ乗入リ救人ヲ救ヒ出シ彼ノ恐レテ行
 カサリシ者ニ云テ曰ク然レ人ノ危難ヲ見ルコ
 リハ寧コ共ニ之ニ罹ラシテ死スル者ナリト
 カル帝五名ニ一人ノ危難アリ名ヲアタシ
 ンド、アヤラト云フ其父反逆ヲ謀リ去リ没
 亡シヤラシテ他邦ニ去ルアタシテ此年十
 四ニ満タス故ニ給俸ヲ有ラ得ル然ハス
 之ハ一困窮セシテ思ヘ此亦如何ニス可クラス
 止ラ得ルス帝ニ軍馬練習ノ名ニ去ラシ
 一録ノ馬ヲ志シリ其金ヲ父ニ贈ル人其馬ノ実
 然レ所ヲスナリシヲ詰問ノ其家ヲ吐カシメント
 スレバ云ハス王ノ之ヲ聞テアタシテアコト
 シ向テヤ馬ノ所ニ在リヲ以テス棄テ直ニ跪キ涙
 ヲ流メ曰ク陛下臣ノ罪ヲ免レ玉ヘ臣ノ父ハ
 陛下ニ対シテ勤クク父ノ罪人ト也然レ臣ハ取
 リテハ父ナリ其子ハ父ノ村スルノ勤クク悔ミテ
 ハ父何ノ其子ハ免サニヤ臣ハ君ノ忠ニナリ

伊東屋製

余
余
12

サシ君リ之ヲ許サレテ我父ノ如クナラシ
臣ノ父カ有テ罪ヲ犯セシモ天壤ニ止ムヲ得サレ
ナリト云フ云々

三国幽眠一評

幽眠越前三國一人ノ義勇家ニ宿儒ナリ
維新之際幕府ノ嫌疑ニ被シテ獄ニ在リ出テハ
後京都ニ在テ花月ニ吟唱シテ樂ム先年余ノ
醉ハ必ス一絃ノ琴ヲ彈ス余月琴ヲ以

テ之ニ和ス余今ノ業ヲ海外ニ在レハトテ殊
ニ余ト箭ト相対シ琴ヲ彈スルノ趣ヲ寫レ之ニ
書ク云フ

風指曾遊已六年櫻花卯裏侍高延記無金盞銀燈

下君鼓四絃各一絃

丙戌一月逸奉寄

霞山明閣下宛伯靈存

其子一散心毛亦二卷ノ如歌曰贈

年のをしめ毎季佳節思親といふ唐うた
と思ひ出テ普國伯靈府ニ在セリ近御池山

伊東屋製

余
小字

註

一モノハ或ハ歴史其沿革付大ニ探ル可
 其モノアルニモヨムヘシト云モ此ノ如キ各
 國皆アリ是レ何ソ天然風色ノ他ニ卓越スル
 アルコヨラサルヲ得ンヤ故ニ其地非ハ
 其名ヲカルモノアリ撒克遜蘇西是也我石
 ノ富岳也此類ナント右州富士ヲ以テ名ク
 ル山岳多キカ如シ其凡テラサレ威ニ服セ
 其名ヲ龍ハレト云スルモト云テ可也
 古語アリ即此撒克遜蘇西ヲ始トス
 ニゲン云ハル少山大男山キル地方リ
 二ノ如キ枚摩ニ邊アリ余亦テ維也納
 在ツテ將ニ伯林ニ来ラントスニ際シ鐵路ヲ
 以テスレ僅ニ十五分間ヲ以テ達ス可ト
 鐵道彼撒克遜蘇西ヲ過ルナレバ一日ヲ三
 ニ費ヤン然レ後ニ伯林ニ行カレト欲スルノ念
 勵々ト止ム能ハス心中ハ之ニ決セリ
 ルニ妨テスルナレバ我前ニ横フテ如クモ
 二サレテ即此獨逸ニ合ウ事セサレカ
 二多少ノ困難ヲ来スナレト一念ヲ發セテ
 其一日伯林在留使青木周藏朝一其白リ

伊東屋製

一將之登セントストノ報ヲ得速カニ行テ孰ク
 一順序等ヲ謀セサルコトヲサレノ場合ニ至リシ
 共ニ之ニ~~レ~~此勝地ヲ横キリテ之ヲ探ラズ
 直ニ伯林ニ向ヒタリ~~レ~~靈山果々沖テラ~~レ~~必ス
 余ハハ韻ニ~~レ~~キヲ憾シタルヘシ~~レ~~然レモ全ノ
 此ニ来ラ~~レ~~トスルノ念~~レ~~敢ニ断ヘサル~~レ~~已
 二ノ秋過キ冬来テ各去テ春至リ春ニ亦早ヤ辭
 ン去レトス~~レ~~四月下旬耶蘇々生祭ル者ニ
 廿二日ヨリ廿七日迄前後カ日同ノ田ヲ得タリ
 伯林ニ赴テ五日同ヲ送ラ~~レ~~更ニ平高ノ概等
 羽田ヲ疑スルコト是サレ~~レ~~シ~~レ~~將夕田舎ニ止ラ~~レ~~シ
 カ~~レ~~手聊ニ堪サレ~~レ~~シ~~レ~~ヨシ此時ヲ以テ撒点
 孫ニ至リ或ハ首都ドレステ~~レ~~ンヲ歴見シ或ハ撒
 志~~レ~~孫~~レ~~西ヲ訪~~レ~~ルカ~~レ~~然レモ深山幽谷猶或ハ
 寒カラ~~レ~~カモ計リ難シ~~レ~~先ツ伯林ニ赴イテ婦
 人~~レ~~代~~レ~~其他ノ友人ニ謀ラ~~レ~~シ~~レ~~或ハ又同行ヲ欲
 スル人トキ~~レ~~限テサルヘシ~~レ~~果~~レ~~然ラ~~レ~~シ又~~レ~~此~~レ~~欲
 二思~~レ~~ル~~レ~~ハ愉快ニ非スト~~レ~~廿二日午前十時リヒ
 ヲ~~レ~~フ~~レ~~ル~~レ~~ト~~レ~~然~~レ~~列~~レ~~者~~レ~~ヲ以テ伯林ニ赴キ先ツ
 伯使~~レ~~彼~~レ~~ニ至~~レ~~ル~~レ~~婦~~レ~~人~~レ~~代~~レ~~氏~~レ~~昨~~レ~~夜~~レ~~巴~~レ~~里~~レ~~ニ~~レ~~赴~~レ~~ケリ~~レ~~

伊東屋製

余(三)臣共
字

別行

蓋し新任公使馬港安着報了り夕し出印
 及し其の報也に於て先づ一書を
 及し乃て代理公使小松原英太郎氏之面し撒克
 連之赴く之故を告げ共之伯林及び都府の調
 へて其の明細を前ハ時列存品を陳力す
 方久明公使彼之來に於て先づ之を決す
 彼勝ヲ探りしに於て其の歴史ノ順序等
 明也と云ふに於て其の甚ハス
 此勝ヲ訪つて否ト之に至りて未決也サリシカ

是に於て之ヲ見ルに決す其起ルル口ヤル
 其三日情晴午前十時半寓ヲ出テアンハル
 信在場ニ赴キ八時一列存ヲ以テ決す
 名ノ大子書生ト覺シキ人二人ノ紳士又去妻同
 行ノ紳士一名トアリ各座ヲ占メテ或ハベテ
 カシク其の同窓ヲ見ルに或ハ小説ヲ讀
 り又或ハ眠ルアリ余ハ原氏ヨリ借来リ
 道中膝栗毛ノ一巻ヲ出テ流シテ滑紙ヲ出テ
 出テ弥好也

伊東屋製

余
お字

余
お字

鹿

聞

一ノ一学生 ~~余~~ 失笑セシ所 ~~同~~ 同 ~~余~~ 其
 解之苦シ之 僅カニ 母書中ノ 晝ニ 滑稽ナル 同 西
 フ示 ~~余~~ 日本ノ 小説ナルヲ 告ク 是ニ 礼テ 存中
 相付テ 之ヲ 見存ニ 一ノ 活端ヲ 用ク 学生 ~~余~~
 同 ~~余~~ 何レニ 行クカヲ 以テス ~~余~~ 答フルニ 撒
 克 ~~余~~ 蘇西ニ 赴カントスルノ 意ヲ 以テス ~~余~~ 彼之
 フ ~~余~~ 中 熊口ニ 彼勝地ノ 奇絶ヲ 説キ 且ツ 同ヲ 出
 ソ ~~余~~ 之ヲ 歴覽スルノ 順序ヲ 示ス ~~余~~ 是ニ 礼テ 猶
 精ニ 之ヲ 知ルヲ 得タリ ~~余~~ 以テ 如ク 詰語 結出
 大ニ 三時 同ノ 長路 竟ニ 存中ノ 會聊ヲ 覚ヘス ~~余~~
 一時 ドレスデン 停車場ニ 着マ ~~余~~ 凡フ 伯林ヲ 登
 ヲヨリ 柏林ヲ 過シ 原野 乘リ 之ヲ 過シ 池沼
 乘リ 行ク ~~余~~ 一時 半 同 更ニ 如ク 風景ノ 月ヲ 照ルナ
 ン ~~余~~ ドレスデンニ 達スルノ 前ニ 至リ 遠ク 山岳
 ヲ 望ミ 雨側ニ 丘ノ 横ニ ル ~~余~~ 下リ 示 桃梅 爛熳 成ハ
 紅 或ハ 白 鮮麗 ナト ~~余~~ フルニ 物ナシ ~~余~~ 後 更ニ 下
 レス デンニ 達シ 荷物ヲ 驗セシメ 停車場外ニ 出
 シ 馬車 宿業 客ヲ 得テ 一ノ 余ニ 供スヘキ ナシ
 止ヲ 得ス ~~余~~ 方ス ~~余~~ 紅レ 氏 ~~余~~ 此地ニ 来ルヤ 今
 四ヲ 以テ 始トス ~~余~~ 在ニ 東西 南北 何レノ 方ニ 行

伊東屋製

~~第...~~

アルト、スタート

カニヲ知ラス 先フ一ノ酒樽ニ登リ 瓶ノ考
 酒ニ湯ヲ流キ懐ヨリベテカノ一ノ名所同給ヨ出
 行カカト欲スルノ方向ヲ見ル 箱解
 スルカ如クナシ直ニ出テ行テ数分一ノ馬車
 アリテ乗客ヲ待ツ 有ニ之ニ乗ルノイ、マルク
 トナニホテニド、サリスニ着ニ朝飯ヲ喫シ終テ
 後一人ノ誘導者ヲ俵ニ 勿ニ命ニ応ニ来ニ
 蓋シ一ノ光筋ニ 金先ニ彼ニ市中ノ見ニ
 牛笛ヲ吹ク 彼云フ君知ラスヤ 本日ハ大
 祭日ニシテ各劇場各音楽台ヲ初メト 各トク用
 殺セリ 君偶々此地ニ来テ一ノ見ニハキモ一
 ナニ 何ソ君ノ不幸ナニ 唯本口ニ市中ヲ一
 所ニ因ノ風景ヲ賞セラレテ一 如何ト 余止
 フ得ス 之ニ随テ 乃チ寓ヲ出テ、先フアリ
 エル、テルシリスニ赴ク 階段アリ 登ルテ致
 級茶店ナリ 祭日ノ故ヲ以テ山ノ下ニ用カス
 此地ニルノ河岸ニ在リテ 柳岸 新市ノ市
 街ヲ望ミ又園中ニ 柳林用キ乱シテ頗ル 艶麗
 蓋シ今ヲ去ル 百四十年前アリグス
 正ニ其ノ代ノ首相タリシアリ 伯ノ所同

伊東屋製

アルト、スタート

ト伯^ノ殿ヲ今猶アリテ塔院会場タリ^ノ然
 ヲ建^ル築^ス在^リマ^ルテ巨^大ナルモ^レ非^ズ之^ヲ
 周^リテ一^ノ狹^路アリ能^ク其^ノ用^田ノ^ノ風景^ヲ也^ニ
 又階^ヲ下^ルテ^テ敷^級ノ^ノ大^橋ヲ^右ニ^見ル^ル
 之^ヲア^ウグ^スツ^ス橋^トス^ル立^テ下^テ右^ニ羅^馬
 田^ノ寺^院ヲ^見ル^ル其^ノ背^面ヲ^王宮^トス^ル而^テ
 寺^院上^五宮^ト一^ノ迴^廊ヲ^以テ^結ニ^国王^ノ寺^院
 之^ヲ赴^クニ^常ニ^之ヲ^以テ^スト^云フ^ル王^宮寺^院
 ト共^ニ千^五百^年代^ノ建^築ニ^多ク^ハ千^七百^年
 代^ニ至^リ彼^ノ最^後ノ^名ヲ^得テ^ウグ^スツ^スニ^是

ノ^ノ為^ニ觀^望ノ^ノ大^ニセ^ラレ^タリ^ト云^フ又^堂
 序^ヲリ^テオ^ビラ^リテ^テ結^西館^{アリ}植^物館^{アリ}
 植^物園^{アリ}日^本宮^殿ト^稱ス^ル
 宮^殿庭^園然^テ日^本風^ノ建^築セ^シモ^ノアリ^ト同^ク
 ケ^レル^ル如^キニ^皆然^ナリ^ト爲^スル^ル用^意ノ^ノカ^ス
 次^ニウ^ウク^ル中^レガ^ノ園^ニ至^ル小^池アリ^テ各^時
 滑^氷ノ^ノ戲^ヲ者^ノ呼^ビテ^テ是^ヨリ^テ市^街ヲ^見テ^テ維^也
 納^街ノ^ノ云^ニ至^リ馬^車鐵^道ヲ^以テ^テブ^ラフ^ルセ^ウ
 中^ノ街^ノ云^ニ至^リシ^ルラ^レル^ル小^鎮ノ^ノ四^時市^ノ
 右^岸ノ^ノ小^鎮ノ^ノ四^時市^ノ

遊^覧船^ニ乗^リエ^ルベ^ク上^ルル^ル
 右^岸ノ^ノ小^鎮ノ^ノ四^時市^ノ

伊東屋製

頭
6注
お

別
行

此地方言の鼻
音は著しく
悪評のヤキソ
ン人
の流るる流る
船のト
ト
ト

十ニ万ノ多クハ達ス
 下ノ横キリ左ノ古市ト称シ右ヲ新市ト称ス
 毛工業製造ノ盛ナル地ニ就中陶器品ノ其名
 声ヲ博スルカ如シ
 スス不橋マリエス橋アルハスト橋是也
 告ニシ橋下各十数箇ノ形ヲ造ル
 人情善モニ比シヤ、傍橋

夫レドレステニハ独ニ聯邦中撒克遜王古ノ都
 府ニシテ軒ニ百年代ノ初ニあり始メ歴史上ノ其
 名ヲとシ、而シテ千四百年代ヨリ帝ノ君臣居住
 ノ都府トナリ、アウグストスス三古ノ華美ヲ好ム
 カルニ大ニ支都ノ光彩ヲ益スニ至レリ
 其後
 当年代ニ至リ人口大ニ増加シ今日ニ至テハ二

80
お

伊東屋製

全
山
字

全

石ヲ見タリ蓋シ同日ノ讀ト云ヘシ又騎ノ
 行クテ致所一カ茶亭アリ之ニ憩フ老姬ア
 リ云フ此ヨリ致所フエルセルト云フ
 リ云フ此ヨリ致所フエルセルト云フ
 リ云フ此ヨリ致所フエルセルト云フ
 其幅尺餘細路ヲ角ニ又大叢石アリテ西側
 山石一挾マリ其下總覺ニ起立行クテ得即
 千ノ石ニセトトルハ石ノ門ト云カ意即
 余考ルニ嘗テ山ノ巔ヨリ此叢石落来リ而當一狭
 井処ニ至テ之ニ止リ之者ナラシ之ヨリ再前
 路ヲ取リ茶亭ノ前ヨリ乗馬又山林ヲ過リ
 路較中峻峻馬大ク劣ク甚ク馬夫鞭ヲ加フシ
 ハ便チ止ス十二カ所バスタインニ牽ス蓋シ
 撒克遜蘇西中ノ要點也高橋アリ登ル一
 王ニベ河畔ノ懐膝北ニラテワムド本林及ニ
 ホトシクスタインノ市街東ニグラントヨリホ
 イメソノ事國ノローゼン山又大各山嶺ト各
 ルスタイン山嶺冠見ノ諸嶽七カニハフスタイン
 ゴーリシスタイン山嶺冠見ノ諸嶽七カニハフスタイン

Handwritten scribbles and marks on the left margin.

伊東屋製

~~余
小字~~

~~余
小字
(三)~~

舟ヲ微テ河ヲ横キリ被岸ニ岸ニテニ村ニ岸ニテニ
 一教十町也川べ河岸
 教回 教九 教十 教十一 教十二 教十三 教十四 教十五 教十六 教十七 教十八 教十九 教二十
 所以ヲ知ルヲ得ニト 醉ニ東ノ小石ヲ投スル
 リテ之ヲ投スル 其時 却テ石ヲ投マコサレノ
 一テアラニヤ 可シ 石ヲ投スヘシ 若シ人ア
 トスルニ人ナシ 余思ヘラク三十 教ニ
 例ニ書メ曰ク此當ニ石ヲ投スル者ハ三十マ
 ムク 四割余ニ処スト 余其故ヲ解セズ 向ニ
 其善ヲ了ク 又数百丈ノ崖石向面ニ屹立シ甚
 同松林ノ生スルアリ 絶景人ヲ去ルニ絶サラン
 之ヲ過テ又下ニテ 教所溪端ニ 大石アリ
 橋ニ岸ニ長サ數十同溪同上ニ架ス 橋ニ此
 乃チ醉ニ束ノ末ノ之ヲ下ニ 教所バスタイ石
 其アリ 就テ年會ス 忽ニ二壩ノ夢酒ヲ居ス
 可リ 忽然此同然ノ地ニ出テ 快極リナシ 旗
 シニムタイシニ 二壩 等ヲ望ム 杏林 諸葛ノ回
 ヒニムタイシノ 碇 又西岸ニラウスタイシト

伊東屋製

行丁馬許駟^志をヲ駐^志大テ左側ノ山腹一山石
 突出^志ノ既ニ路上ニ落来^志トスルヲ指サシ
 鷹^志ニ云フ是即チ獅子頭^志ト又行ク^志ノ数馬
 十^志時^志ワ^志ン^志サ^志一^志フ^志ル^志ニ^志達^志ス^志茶^志亭^志アリ^志車^志ヲ
 リ下テ側ノ瀑布ヲ見^志ン^志高^志サ^志ニ^志同^志餘^志蓋^志シ^志旅
 人來^志ラ^志サ^志シ^志ハ^志水^志落^志チ^志ス^志人^志來^志リ^志土^志人^志一^志方^志ヨリ
 網^志ヲ^志引^志ケ^志ル^志水^志落^志チ^志来^志ル^志頗^志ル^志兎^志戯^志ノ^志類^志ス^志笑
 フ^志ヲ^志シ^志是^志ヨリ^志山^志路^志十^志レ^志再^志チ^志馬^志ヲ^志命^志ノ^志来^志ル^志
 山^志林^志ニ^志入^志ル^志其^志同^志唯^志松^志林^志ノ^志類^志ヲ^志見^志
 馬^志夫^志頗^志ニ^志活^志ス^志偶^志言^志解^志ス^志ル^志ニ^志難^志シ^志
 十一^志時^志半^志ク^志一^志スタ^志ール^志ニ^志達^志ス^志ク^志一^志スタ^志ール^志
 川^志半^志舎^志ノ^志意^志茶^志亭^志アリ^志其^志向^志面^志ニ^志大^志山^志石^志アリ^志
 其^志下^志ニ^志一^志大^志穴^志アリ^志テ^志前^志後^志相^志往^志来^志ス^志ハ^志シ^志其^志穴^志
 可^志過^志テ^志一^志平^志垣^志ノ^志地^志アリ^志又^志前^志後^志数^志十^志仞^志ノ^志絶^志
 壁^志ヲ^志見^志ル^志左^志折^志ノ^志兩^志崖^志ノ^志間^志僅^志ニ^志一^志寸^志斜^志ニ^志通^志
 ス^志ハ^志キ^志一^志小^志路^志アリ^志階^志段^志ヲ^志登^志テ^志数^志十^志級^志山^志石^志ノ
 背面^志ニ^志出^志テ^志数^志多^志ク^志一^志洞^志ヲ^志見^志ル^志右^志ヤ^志右^志ノ^志山^志石^志
 ヲ^志沿^志テ^志一^志小^志路^志ヲ^志行^志ク^志頗^志ル^志危^志險^志ト^志下^志ル^志一^志
 所^志茶^志亭^志ノ^志前^志ニ^志出^志テ^志昔^志ニ^志三^志十^志年^志同^志ノ^志役^志ニ^志土
 民^志水^志レ^志テ^志地^志ニ^志入^志リ^志家^志畜^志ヲ^志其^志洞^志穴^志ニ^志入^志レ^志テ^志行^志ク

伊東屋製

故ニ此ニ来レハ己ニ
休ムヘキト悟リ
動カサルト

~~余
小字~~

27

~~余
小字~~

此ノ乱暴ヲ防キシ故ニクノスルノ右アル
 将ニ再ヒ来馬セシトマレハ馬居ラズ
 全疑ニ堪ハズ茶亭ノ主人告テ云フ此下数所
 道路頗険悪東馬ノ下能ハズ故ニ馬下馬ヲ
 引テ平坦ノ処ニ至待ト余始テ之ヲ解ス
 彼大岩石ノ側石階ヲ下ルテ数十級ノ右折リ又
 石階アリ五分時又一ノ松林ニ至ハ馬
 下乃チ馬ヲ扱ハテ待ツ余直ニ之ニ乘リ小
 山嶺ニ向テ数里ノ間道険ナラサリシカ僅ニ小
 谷嶺ノ頂ヲ見ルニ至テ曲折數百回石塊既ニ横
 ハリ甚ク険悪馬モ亦大ニ苦ム余テ亦
 十ニ折リ必ニ至リ馬直ニ下佳マス鞭少テ
 蹴レバ即動ス蹴下セハ新當絶壁數十仞ノ溪
 洞也仰ケル又躡立ノ山岳也余カシク心ニ
 恐レテ懐キ馬下ノ来ムヲ待ツ馬下漸クニ
 情ニ云フ此知ヲ以テ常ニ馬ノ休憩必トス
 余始テ之ヲ解ス又登山テ數十折山嶺ニ達ス
 茶亭下ニ茶姫アリ牛乳ヲ飲マズヤ
 余其意表ニ出シテ驚ケリ馬下馬ヲ
 上回フ山端ノ石上ニ立タシテ其地ノ勝ヲ覽ク又云

伊東屋製

余
小字

又行ク丁敷電道跡林十平坦
 二至リ大谷嶺ニ達ス
 亭アリ 就テ午食ス
 此地モ己ニ數十人ヲ見シト
 スルハ 特ニ絶勝トモ思ハサ
 下ル 又杖林ニ入ル
 下ル 又杖林ニ入ル
 夫ニ届テ行程ノ盡ク
 分ル
 又行ク丁敷電道跡林十平坦
 二至リ大谷嶺ニ達ス
 亭アリ 就テ午食ス
 此地モ己ニ數十人ヲ見シト
 スルハ 特ニ絶勝トモ思ハサ
 下ル 又杖林ニ入ル
 下ル 又杖林ニ入ル
 夫ニ届テ行程ノ盡ク
 分ル

伊東屋製

此知反響スルヲ甚シク
 又同時ニ他山ヨリ同音ヲ
 入ル 行リテ故所又一ノ
 其上ニ立テ叫ブ
 上ノ作用ヨリ海スレ
 又吠ニ旅中ノ徒然ヲ
 又行ク丁敷電道跡林十平坦
 二至リ大谷嶺ニ達ス
 亭アリ 就テ午食ス
 此地モ己ニ數十人ヲ見シト
 スルハ 特ニ絶勝トモ思ハサ
 下ル 又杖林ニ入ル
 下ル 又杖林ニ入ル
 夫ニ届テ行程ノ盡ク
 分ル

右折ノ行丁敷所ノ人アリ通券ヲ志シ
 石階ノ當石ヲ治ニテ行クアリ
 級平坦ノ道ニテ其端ニ到リ之ヲ周
 ルハ當石ノ山ニ下ヲ見レハ敷石四ノ
 溪洞ニシテ錐形ノ山頂直ニ敷石十
 ニ屹立ス真ニ奇景也再ニ下テ志奉場ノ前
 ニ至リ行クテ敷石一十餘アリ即チ當石ヲウ
 ガフテ築造セシモノナリ是ヨリ驛ノ其下
 敷石折ノ長坂鉄欄ヲ付レ敷石ノ男女山ノヨリ
 登リ来ルヲ見レハ黒衣紅裳相映シテ美也
 天然ノ一大石橋アリ彼ハ大伴或ハ神籬水滸
 傳ニ見レ康申山ノ石橋モカクヤト思フ計ナリ
 橋下ヨリ橋上ノ人ヲ望ムハ甚ク危キカ如シ
 橋上ニ至リ見レハ其幅七八間且ツ木柵アリ
 ハ一ノ愁シヲ生スルナリ是又一奇景也
 旗亭ヲ出テ、隧道ヲリ長サ敷石同ニ過キス
 又過テ前迹ノ長坂ヲ下ル行クテ敷石所ニ
 山下ニ達ス是ヨリ道路平坦ビラ河ノ水流
 ヲ此好行ク路ニ老人ノ輪脚ニ加馬スレ見レ
 其形々香港ニテ見レ橋脚ニ頼シテ歩ク異ナ

伊東屋製

余
字

余
字
(三)

余評リテ船長ニ其何レノ行カテ問
 ハ答ヘテ曰フテシニ行ト云ヒシニ船長
 入ス余ドレステニ行ト云ヒシニ船長
 笑テ曰フドレステニ行ト云ヒシニ船長
 時計ヲ檢ヌルニ時半也是ニ於テ金カ
 耽リ時ノ猶早キヲ惚ラス已ニ四時ト思ヒシ
 不注意ヨリ今此過キヲ報セシト悔
 ハス船長ニ如何ナカランカヲ問フ彼云フ
 次ニ船ヲ一ガールニドニ着クヘシ其時
 ニ上陸セリ曰フヨリ多分同時登陸ス
 之ヲ以テキヨニニクスタインニ至リ
 ス曰フ飛ノ船便ニ乘リ得ヘカラスト余
 順ヒニ一ガールニドニ上陸シ同所停
 ニテ茶ヲ同ヘルニ余又此途ニ失
 ヒ為ン所ヲ知ラス然レモ如何共ス
 ヲヨシ一時間ニ止テ五時飛ノ船ヲ待
 ント
 徘徊スル少時土地ノ農夫等集テ球
 戲ヲ為ス余乞フテ其群ニ入り一時半
 之費スヤカテ九時ニ至リ又テ報ス乃チ
 之ニ乘ルトシ考フルニ船長ハ是ヨリ
 伊東屋製

~~余ノ字~~

ハヤス

~~余ノ字~~

~~輜~~

三至ル 又流經ノサナリシ 道一カテ王宮ノ
 馬女藏ヲ見ル 致十輪ノ馬女アレシモ皆此
 スルニ是ラス 唯即位ノ時ニ用ヒラルル物甚
 美也 次ニ古武器陳列場ヲ見ル 千四五百年
 代ヨリノ古武器列子ヲ漏サス 又各何人ノ用
 ヒモ所ナク記シ 塚ニ祀スルニ堪ヘズ 又
 陶器陳列場ニ至ル 其大車ハ支那日本印交 撒克
 遜ノ陶器ニシテ政州各子ノモノ甚タ少シ 蓋シ
 アウグスツス 其古ノ時ニ東洋ノ陶器ヲ集メ又
 撒克遜ノ陶器碎モ大ニ寄リ進ムニ至リシト
 ナリ 川島醇氏寄テ余ニ鹿見鳴ニ生レ自
 レ陶器ヲ見ルノ目ニ肥タリト思ヒレカドレ
 ス 然レ陶器陳列場ニアル鹿見鳴陶器ヲ見テ初
 テ眞ニ鹿見鳴陶器ノ貴キヲ知レリ 實レ日本
 ニテ薩ノ焼ト一新ヤスモ、如キハ之ニ比シ
 下ノ下タルモノ也 妙極ニシテ能ク此精巧ノモ
 ノ、ミヨク集メシカ感スルニ餘リアリト 余ハ
 陶器ヲ鑿定スルノ才ナクモ同氏ノ言ヲ信テ
 一ツシヨリ此日之ヲ見ルニ大ニ心ヲ用ヒタリシ
 カ余ノ見ル所ヲ以テスレハ其後ノ如何ハ知ラ

伊東屋製

余
下字

隔

?

X

近所の製糖工場に下りて栗田清水の
 陶器の一方を美と考ふる也蓋其造精
 千人の之を固力か或余一浅見ヲ失フテ
 カ次之樂器製造所を見れば皆其精巧極
 多し若くは一之ヲ奏聴カシム或は數十
 一喇叭の上を列子下一太鼓ヲ置キ僅ニ
 一ノ鍵ヲ以テ之ヲ巻ケル思ハ樂隊數十人ノ多
 少ヲ奏スル如ク或ハ一ノトヤノアリテ人ノ之
 ヲ彈スル一トキ之ニ電氣ヲ通スレハ忽之
 ヲ彈スルカ如キ故岸ニ違アラス又ハ樂器ヲ

陳列スル如クハオルゴールノ各種ハ云々及
 ス一ト函ノ蓋ヲ用ケル鮮明ナル鳥飛テ時ス
 ル声實ニ優スヘク声ヲ残スル毎ニ口ヲ用キ羽
 ヲ動かス極精巧極ト云ハシ次ニ割室ニ入
 ランノ教室ヲ隔テ彼テシヤンノ機械ヲ以テ
 遠隔ノ音響ヲ聞カシム其ト云ヘシ次
 ニ絵画館ニ至ル數千ノ国画何シモ凡テ
 廿ルナリ皆其代ヨリ有名ノ画家ノ画キシモノ
 ニハ其ノ人ノ味ト呼ビ好ト叫ビシ中ニ
 耶穌・生ノ像ハ伊太利画家ニハ一ノ代ノ西

伊東屋製

鼓

der Maulbeerbaum

378

der Maulbeerbaum

一	位	ヲ	占	ノ	漏	合	品	ノ	如	キ	ハ	邊	カ	ニ	其	下	ニ	ア	リ
ノ	ヲ	番	査	査	官	ノ	監	査	ヲ	至	テ	ハ	其	製	ノ	天	ノ	才	
ハ	喜	テ	眞	物	ト	ナ	ス	又	茶	ノ	如	キ	共	進	合	ニ	出		
ナ	リ	レ	モ	ト	考	ヘ	日	本	従	来	ノ	粗	画	ヲ	以	テ	ス	レ	
等	其	日	本	品	タ	ル	ヲ	信	セ	ス	之	ヲ	吹	州	ノ	模	造	ニ	
回	取	モ	心	ヲ	用	ヒ	テ	製	セ	レ	モ	ノ	西	人	ノ	示	ス	ニ	彼
ノ	ア	リ	ク	タ	ト	ハ	ハ	陶	器	ノ	如	キ	其	彩	色	巧	ヲ	尽	シ
改	良	セ	サ	ル	ヲ	ス	而	シ	又	改	良	ス	ル	ニ	難	キ	モ		
日	本	美	術	ノ	一	ニ	及	ブ	氏	長	嘆	ク	云	フ	日	本	美	術	
人	ナ	ル	カ	余	ニ	モ	ノ	友	人	ト	氏	ヲ	公	使	館	ニ	訪	ヒ	談
輔	任	ニ	在	リ	專	断	殖	産	ノ	心	ヲ	サ	レ	カ	ヲ	費	セ	シ	
特	命	令	權	公	使	呂	川	節	二	郎	氏	ノ	前	キ	ニ	農	商	務	大
蓋	シ	其	地	形	又	聖	葉	ニ	似	ク	ハ	十	リ	ト					
ル	ス	意	ヲ	考	リ	独	乙	語	ヲ	マ	ウ	ル	ハ	一	ル	バ	ウ		
山	ト	云	ヒ	英	語	ヲ	マ	ル	ハ	リ	ツ	リ	ト	云	ハ				
リ	其	名	来	リ	シ	カ	ヲ	同	フ	コ	モ	レ	ア	ト	云	フ	何	レ	
ス	カ	ト	唱	フ	シ	地	ヲ	今	ハ	モ	レ	ア	ト	云	フ	何	レ		
ポ	ロ	フ	エ	ソ	リ	ル	シ	ツ	ト	氏	回	ク	古	ハ	ペ	ロ	ホ	子	
ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ	ニ	シ

伊東屋製

ネ

原文
競争

第
小字

長
大
息
ス
ル
ア
ル
ノ
ミ

思
フ
ノ
キ
ト
ト
之
ヲ
タ
ラ
シ
ム
者
モ
歎
ク
答
ハ
ス
唯

日
在
地
産
ノ
改
良
進
歩
ヲ
期
ス
ハ
中
外
諸
君
ノ
共
心

ル
ノ
真
ニ
ア
リ
之
ヲ
以
テ
ス
レ
バ
何
レ
ノ
日
ニ
カ

月
在
品
ヲ
崇
メ
ル
ハ
其
巧
十
ニ
一
ノ
真
ニ
非
ス
ト
モ
其
中

正
ノ
美
術
物
産
進
歩
マ
ン
ト
シ
准
レ
ル
能
ハ
ス
外
人
ノ

テ
レ
ノ
賣
品
ニ
混
製
ヲ
以
テ
ス
ル
ノ
場
合
ニ
至
リ
我

之
ノ
ヲ
認
ム
者
モ
学
術
上
ノ
競
走
ニ
似
テ
製
造
ヲ
以

本
邦
ヲ
競
フ
ニ
ハ
必
ズ
彼
國
合
品
ヲ
以
テ
シ
テ
製
造
ノ

是
レ
至
当
ノ
一
ト
ナ
リ
然
レ
モ
外
人
ノ
好
ム
ク
テ
日

全
ノ
奥
州
ノ
一
種
異
稱
ノ
人
民
ヲ
リ
テ
五
帝
ノ

車
中
ノ
隊
ト
シ
テ
何
ノ
目
的
ト
ス
ル
ノ
宜
シ
ク
ナ
ク
特
唯

思
フ
所
ニ
在
テ
行
ク
者
ヲ
見
タ
ル
ト
多
シ
全

其
何
者
タ
ル
ヲ
問
ハ
ス
独
リ
心
ニ
疑
ヒ
居
タ
リ

独
リ
地
方
ニ
在
リ
テ
是
レ
ハ
心
ヲ
守
リ
テ
カ
故
ニ
又
人

ニ
之
ヲ
問
フ
ノ
便
宜
ナ
カ
リ
シ
一
日
ド
ク
ト
ル
ハ

少
ア
ル
授
業
ノ
法
此
異
稱
ノ
人
民
ニ
及
ブ
ル
年

フ
目
ニ
シ
テ
十
ト
呼
ブ
者
モ
其
何
レ
ノ
人
種

Zigeuner

伊東屋製

原文「暢新」

原文「驚」

故ニ今日魚西亞ニアリト思ヘリ明日ハ西班牙
 牙ニ在リ又轉々他ニ移リ實ニ水草ヲ逐フテ移
 移スルニテノ常ニ轉々家トシテ中ニ一切ノ
 家具ヲ戴セ移居心ノマ、又ハ水ノ平
 原アルヲ見テ皆之ニ集テ天幕ヲ張り暫時ニ
 一村落ヲ為ス之ヨリ皆市ヲ出テ、食ヲ賒
 七帰リ一大鍋ヲ以テ之ヲ煮食集テ共ニ之ヲ

食フ彼等ニヨリ悪食ヲ已ムサレハ鍋中暢新
 虫ヲモ共ニ投メ食ヒアケル歌ヒ舞ヒ歡ヲ尽
 ヲ苦ニ夜ヲ徹ス又群中白髪ノ老人能ク吉凶
 フトス我國行ハレシトテ愚民ノ占斷ヲ乞フモノナ
 ナカラスト云フ而シテ明朝ニ至レハ各車ニ加馬
 ヲ去リ其行方ヲ知ラス實ニ異様ノ人民ト
 云フヘシト是レ礼ヲ精日ノ疑ヲトク

古代ノ樹ニ人ニ箇ノ等位アリテ一ノ自由ノ
 フコイタルノ由來

伊東屋製

原文「何支ニ管セス」

allord
dehems system
dehem

民トシ一ヲ指制ノ民トス
ニ管セス租税ヲ出サバ
ノ田ニ分ク其ノ附隨者
トシテ其ノ所有権アリテ
租税ヲ拂フノ義務アリ
全ク何等ノ權利ナキモ
民ノ所有ヲ稱有地ト呼
ト稱セリ殊ニカレ大帝
古時代ノ政治組織ノ基
ハ古時代ノ人ヲ以テ見
即チ Feodals

Feod

人此政治ヲ呼テオガ
又テオタルシステムノ
故ニテオタル政治ハ
起サレタルモノナリ
全中古時代ノ政治ハ
此ヲ以テテタル
其一方ノ公侯
ノ東洋ノ諸國ノ權ヲ行
コ行ハントシ又一方ハ
其勢力ヲ張テ

伊東屋製

原文「田舎」

原文「失」
「ウ」
「ト」
「ス」

42

全
二字
小字

俵

心候ノ束縛ヲ離シテ
 幸闘ノ名ニ國政ノ妨害トナリシ
 リシカ彼彈藥ノ發明ヨリテ此年ヨリ得
 タリシ而シテ常備兵ノ組織ヲ令セシ
 印ヲ借ルニヨルニテ近時公侯ハ年
 機合ニシテ遂ニ立君ヲ行フニ至ル
 其制ノ此後ハ佛五路易十四古ノ語ヲ以テ和
 一ニシテ其語ニ曰ク自ラ國ナリ
 百四十八年ヨリテ局ヲ終リ立憲政体ヲ以テ
 此政体ヲ以テ

川流子ニ組成スルニ至レリ
 野口松坡

春未未
 影墨江花月又思君
 野口松坡

神奈川
 銅駝ノ校ニア
 友ノ

三字下ゲ

伊東屋製

南大
異也
下

三
字
下

物ヲ学回ノ将帥タルト欲スルカ
 下ノ
 大若シモ日本ノ一寒士ナラシメハ前若ク取モ
 妻ヨリ其分家ト免尚モ信者ヲラシメ以上ノ山皇
 問ノ如隸タルヲ以テ甘ニスヘケニヤ
 下ノ所ヲ以テセハ天下ノ備ナラルベキ事同ハ他
 日不完合ノ国家ヲ経綸シ織シタル貴族ノ御面
 可修理セラルルナキ一材料タルニ過キス
 常生ニ異ナル所以也
 故ニ生ニ只強ク
 心問ニ忠ナル如ク精神ノ幾分ヲ削テ莫氣ヲ養ハ
 ルヘシ
 莫氣ヲ養フニ
 回ク身ノ健康ヲ保フ
 サルヲ得ス
 此ノ如キ精神ヲ維持シ終身
 行スルヲサレハ是レ則チ字回ニ中心
 家ニ忠ナルモノニ非スヤ
 以下異ス
 コハ希臘史中ノ要部ニシテ希臘戰争ノ起端ヲ
 ヲニシ種希臘人ノ蜂起
 ヲバシ氏著書中
 ヲリ抄訳ス
 起端ヲ
 説セシトスルモノナリ
 小正西地六ノ希臘人ハ皆其リ
 下ノ族ノ五ニ
 制服セシレテ
 群鳥ノ佐民ハ其旗下ニ之タス
 然レニ事人敢テ其地ヲ畧セラシニ
 非スヤ

嶋

伊東屋製

二勢力ヲ得シヲ羨ミ王ニヒスナク
 ナリヲ説キ大ニ悔業ノ心ニ
 アテテ^此シ生シヒテエウスヲ召シテ五例ヲ離サ
 ス^此陽ニ世ノ如キ^此高僧ノ例ニアラレテ欲ス
 ト稱シ陰ニハ彼ニ交ヲ存サシメサラニカカ
 ス^此蓋シ羨美羨食ノ因人ヲウニ思キサル^此
 比^此款ヲ五ニ外見ノ存ニ彼レノ女嬭タルアリ
 ス夕ゴラスコハテ彼レカ從来ノ地位ヲ與ヘ
 シトノ施治者ト存セリ^此然レモ彼モ亦實ニ不
 快ノ結果ヲ見ウニ至レリ^此此時ニ交テナクソ
 不^此當ニ當^此洲合列衣シ一當故ヲア第夕ゴラスニ乞
 フ^此アリス^此夕ゴラス是ニ於テ^此無ノ相^此政者王
 弟アル夕フ^此ル又スニツイテ同^此島ノ^此遊兵ヲ送
 ラント乞フ^此廟議之ヲ密シ^此波人ベガバテスニ
 戰艦ニ百コ交ヘテ^此アリスタゴラスヲ助ケシ
 前^此ニ^此將相合ハス^此メガバテス^此敵ニ
 通^此メ^此龍ヲ^此予^此者^此ニ^此存^此ニ^此アリスタゴラスニ^此斬
 時市衛ヲ攻撃スル^此後^此印ヲ^此養^此ヤス^此島ヲ^此引^此ク
 ノ不幸ヲ^此醸^此セリ^此然^此レ^此此^此不^此成^此印^此ハ^此以^此テ^此善^此反
 ノニ^此ナ^此ラ^此ス^此王^此ノ^此死^此心^此ヲ^此催^此ス^此ニ^此是^此レ^此ノ^此價^此アリ^此ニ^此必^此ズ

伊東屋製

原文 性命

原文 慎

慎

448

原文 不

不

予	云	フ	下	望	ヲ	去	玉	ハ	外	人	再	ヒ	市	場	ニ	マ	リ	ヲ	示	以	テ	群	集	ス	ル	ヲ	見	ル	此	ニ	於	心	ノ	勇	氣	モ	十	ク	又	其	念	モ	勿	リ	シ	レ	是	ニ	於	テ	之	ニ	反	シ	テ	小	西	地	方	ノ	知	人	ハ	波	王	ニ	反	シ	テ	其	自	由	ヲ	辨	別	セ	テ	レ	シ	テ	慎	シ	レ	ル	也	初	メ	彼	ノ	志	ヲ	固	ク	シ	テ	蓋	シ	身	ハ	王	宮	ニ	止	メ	ル	也	心	ヲ	心	ヤ	ヒ	ス	テ	工	ノ	ウ	ス	之	ヲ	カ	テ	陰	ニ	之	ヲ	翫	ム	也	王	ニ	告	ラ	シ	テ	決	セ	リ	蓋	シ	命	ヲ	犠	牲	ト	シ	テ	抗	セ	リ	也	口	甘	ク	割	ヲ	受	ケ	ル	コ	リ	我	命	ノ	價	ヲ	貴	ク	シ	テ	反	ス	也
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

伊東屋製

別行

三殺サウ
結屋水ヨリシ
降ヨリシ
共ニシ
トニ
向フ
終ニ
レト
サモ
ス
葛
一
同
ニ
水
戦

鳴

アリテ
金ク
局ヲ
結フ
サ
モ
ス
人
戦
酣
ナ
ル
ニ
及
テ
兆
モ
シ
レ
ス
ホ
ム
人
之
次
チ
其
餘
逐
次
ニ
敗
走
ス
独
リ
シ
オ
ス
人
或
ニ
波
人
ニ
抗
セ
シ
カ
他
ノ
敗
走
ヲ
見
テ
大
ニ
勇氣
ヲ
減
セ
リ
是
ニ
於
テ
水
陸
ノ
波
兵
ニ
レ
ト
ヨ
取
リ
信
民
ハ
多
ク
敵
リ
帰
セ
ト
童
兒
ハ
ス
サ
ニ
送
リ
市
街
ハ
全
ク
破
壞
セ
ラ
レ
ル
後
再
ビ
市
街
ヲ
建
テ
シ
モ
亦
前
日
ノ
比
ニ
ハ
至
ラ
ズ
次
年

別

行

ノ
者
ニ
望
ミ
シ
レ
ス
ボ
ス
テ
ド
ス
シ
オ
ス
略
セ
ラ
ル
シ
オ
ス
人
猶
ヒ
ス
チ
エ
ウ
ス
ヲ
奉
テ
波
子
ニ
抗
セ
ント
セ
シ
カ
終
ニ
捕
ハ
レ
テ
ア
ル
ヲ
エ
ル
又
ス
ノ
前
ニ
引
カ
ル
後
チ
斬
セ
ラ
レ
首
ハ
滅
ス
サ
ニ
贈
ラ
レ
タ
リ
比
ノ
如
ク
反
逆
ハ
鎮
靜
シ
タ
レ
バ
正
ナ
リ
ア
ニ
及
ビ
司
ニ
ア
レ
ル
人
ハ
此
抗
戦
ノ
名
ニ
希
波
戦
争
ニ
敗
テ
波
斯
ハ
大
敗
ヲ
蒙
ル
此
ノ
損
害
ヲ
没
タ
リ

未
因
地
方
ノ
葡
萄
酒

伊東屋製

余
小学

541

信
白

素田ノ葡萄、甚ク有ク、大ニ其院セラル、
 毛ノ十ニカ素田河ノ西岸葡萄樹ノ多キヲ見テ
 毛甚盛ナルヲ知ル、然レニ其中ニモ各所
 ニヨリテ其地右ヲ以テ名ケタル名酒アリ、殊
 ニ右岸ニ多ク、左岸ニ少ク、之ヲ飲ンテモ右
 岸酒大ニ優ルヲ覺テ、蓋シ右岸ニ高山多ク
 且テ日光ヲ受ンテ強キ有ク、山岳ノ日光ニヨリ
 テ熟スル、大ニ葡萄ノ生熟ニ同ズト云ハレ
 左岸ニ高山アリテ葡萄モアレト日光ヲ受
 ンテ少キ有ク、右岸ノ酒ニ及ハサルト云ハレ
 信白ノ知ラズ、然レテ其ノ所ヲ記ス
 永田学籍死ス
 人
 学籍ハ右ノ人、父ハ旧幕府下ノ士ナリ、
 幼名幾ニ即直清ト呼ブ、余ノ大久保殿翰翰ニ
 就テ漢籍ヲ学ブヤ、学籍モ亦アリ、之ヲ以テ屢
 ハ我家ニ来ル、余ノ郁文ヲ可起スヤ、学籍モ亦
 之ニ力ヲ尽ス、後、学籍ニ耽リ、友人ノ諫言ニ耳
 ニ入ラズ、友人皆及ニト交ヲ絶タシ、ト云ルニ至
 ル、後、自ラ其非ヲ悟リ、友人松井邦武ニツキテ
 此ノ語ヲ学ビ、又生計ヲ助ケ、之カ為ニ、伊東屋ノ

伊東屋製

余
三
三

余
二
二

5x2

余
二
二

余
三
三

二
下

小吏ヲ奉仕ノ頗ル謹勉セリトシテハ余亦地ニ
 テ彼自ラヨリモ前日ノ言ヲ非サシテ告
 他友人ヨリモ其改心ヲ當體セシテ告ラ
 モ大ニ之ヲ喜ビシカ明治十九年八月十七日
 病死セリトシテ余ニ接シ哀悼ノ至リ堪ハ
 松井邦武君ニ一律ヲ賦セリトシテ遂ニ余ニ示
 不

西川蘭時必入及書樓。忽接訃言難耐。愁落月滿梁。人在
 夢。殊燈半壁。起生秋。青雲黃壤路。終隔。嗚呼。命。多。年。志
 未酬。手折芙蓉。平新塚。蒼苔。知。淚。痕。稠。

西洋逸史

全

載セリシカ我友藤波言忠ノ官命ヲ帶テ
 海政スルニ命ヒタル伯林ノ同氏寓所ニテ
 互ニ胸中ヲ吐露セシカ談偶生カ演政ノ
 初年語ヲ解セサルノ困苦ヲ語リ彼逸史ノ
 詰類ヲ示セシニ彼云フ大ニ可ナリ
 困苦思フヘシ然レニ今
 明官殿下ハ已ニ學齡ニ及ヒ玉フ

伊東屋製

十心内聖ヨ召玉フニ来ラス
 詰所ヲ見玉ヒシニ一人ノ内聖机ニ凭リ睡リ居
 夕リ其前ニ書初メシ書同アリ
 玉フニ其子ニ曰ク慈母ヨ児カ不寐ノ番ニ
 一モ今視ニテ三夜続ケリ其方ニ同僚ノ者ニ
 リ謝礼同僚ノ代トナシトメ十弗ヲ得夕リ
 是ニ送付スト其後ハ書ニアリ夕リ王大ニ
 其孝心ヲ憐ミ玉ヒニ枚ノ左端半形ヲ取来リ山
 童ノ兩懐ニ押入テ之ヲ寤サズ睡リ玉ヒ夕リ
 小童翌日懐ヨリ其半形ヲ取出レ見テ忽チ玉
 左セシト悟リ之ヲ推乃テ玉ニ呈リ其仁惠ノ厚
 キヲ謝シ夕リト



